

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	02 08 09	中期総合計画主要施策番号	3-11	担当課	部・課	企画部 生活文化課
事業名	交通安全啓発活動事業			内線	2849	
				E-mail	seibun@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	県民一人ひとりの交通安全知識の普及と意識の高揚を図り、交通事故を減少させるため、各種啓発活動を実施する				
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・平成20年において、事故件数、死者、傷者とも4年連続で減少しているが、依然として高い水準で発生している。 ・死者のうち高齢者の占める割合が、約半数(H20 47.5%)を占めているとともに、高齢者が関与する交通事故の構成率が高くなっている。				
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・飲酒運転や著しい速度超過など悪質な交通違反が後を絶たない状況である。 ・急速な高齢化社会の到来に伴い高齢者ドライバーによる交通事故が増加している。また、歩行中の高齢者の死亡数が、高齢事故死者の4割(H20 高齢者56名の内 23名(41.1%))を超えているなど、高齢者が関与する交通事故が増加している。				
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・高齢化率が高い本県において、増加傾向にある高齢者の交通事故に対しての交通安全啓発は必要であるが、県民総参加の交通安全運動を展開していくため、高齢者だけではなく、広く県民に対する交通安全の普及啓発を関連機関と連携のもと実施していくことが必要である。				
	事業内容	・季節ごとに行われる交通安全運動にあわせ、啓発や各種施策を実施 ・シートベルト着用啓発と警察による取締りを同時に行う施策等を実施 ・交通安全Kプロジェクトの実施(高齢者と高校生にターゲットを絞った交通安全施策の展開) ・ボランティアリーダー、交通安全アドバイザーとして交通事故防止活動を推進する長野県交通指導員の委嘱				
実施期間	S45 ~	根拠法令等	交通安全対策基本法等			
成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況	評価
	・県民に対する交通安全知識の普及と意識の高揚を図る。 (交通事故発生件数をH24年までに11,000件以下にする。)	・交通事故発生件数をH24年の目標達成に向けて、12,400件程度まで減少させる。			・各種施策の実施や啓発による県民意識の向上により、交通事故発生件数は11,898件で12,400件程度という目標を500件下回り、期待どおりの成果を上げた。	a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要
	最終予算額 (A)	千円	8,652	7,756	7,848	国庫・県単 県単
	決 算 額 (B)	千円	7,822	7,128	-	実施方法 直接、負担金
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	7,822	7,128	7,848	歳出節別内訳等
	概 算 人件費	人	7.7	7.7	7.7	・報償費: 19 ・需用費: 3,957 ・負担金: 1,800 (単位: 千円)
	概算事業費 (B(H21はA) + C)	千円	62,800	62,175	62,895	
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績
	季別交通安全運動街頭指導所等年間参加者延べ数	人	94,819	108,463	100,000	・交通安全Kプロジェクト事業の実施により、体験・実践型セミナー、CMコンテストの実施、交通問題に関するテレビ番組の作成、交通事故防止体操など、高齢者やブレドライバー世代である高校生に対する啓発を重点的に行った。
	シートベルト着用啓発実施回数	回	267	272	300	
	季別の交通安全運動の実施	日	48	48	48	
事業の課題	区 分					
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明 ・交通事故のない社会の実現は、県民の安全・安心を確保していく上で重要な要素であり、県民の関心度も高い。 ・交通安全施策の実施は、交通安全対策基本法等によって県の責務として定められている。 ・増加傾向にある高齢者の交通事故対策など必要な部分・世代に重点的に取り組んでいくことで、効率的に成果を上げている。 ・21年度から実施予定の「交通事故ゼロチャレンジ事業」により、チャイルドシート装着向上に向け乳幼児を持つ主婦層にも取り組みを広げていく。	
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
課題の総括	交通事故発生件数や死亡者数が減少していることなどから、県民が安心して暮らせる安全な交通社会の実現に向けて着実に成果を上げている。 高齢化率が高い本県において、増加傾向にある高齢者の交通事故に対しての交通安全啓発は必要と考えるが、県民総参加の交通安全運動を展開していくため、高齢者だけではなく、広く県民に対する交通安全の普及啓発を関連機関と連携のもと今後も地道に継続実施していくことが必要である。					